

平成17年度 グリーン物流パートナーシップモデル事業  
実施計画提案書

〔 モデル事業件名 〕

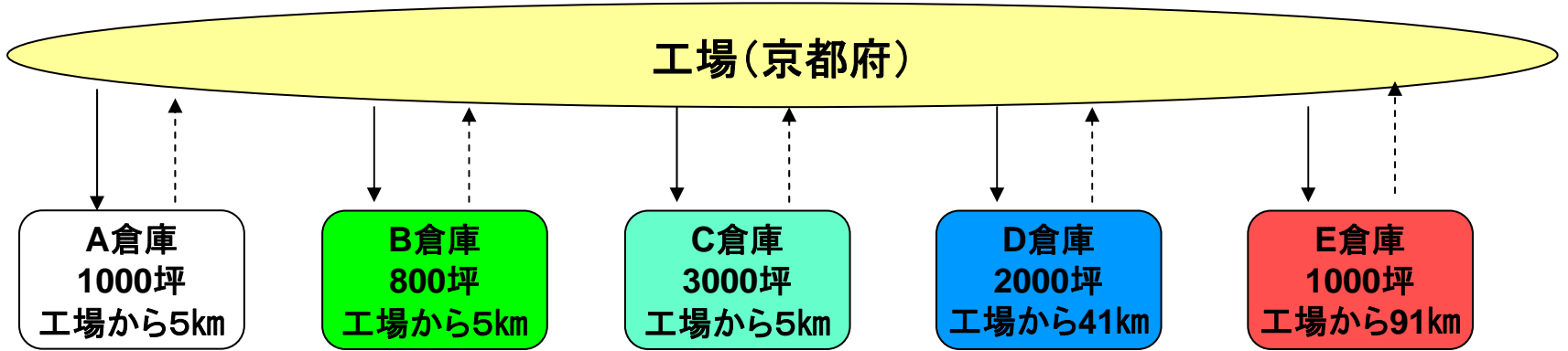
倉庫を新設し輸送距離の短縮とトレーラー化でCO2を削減する。

2005年7月29日

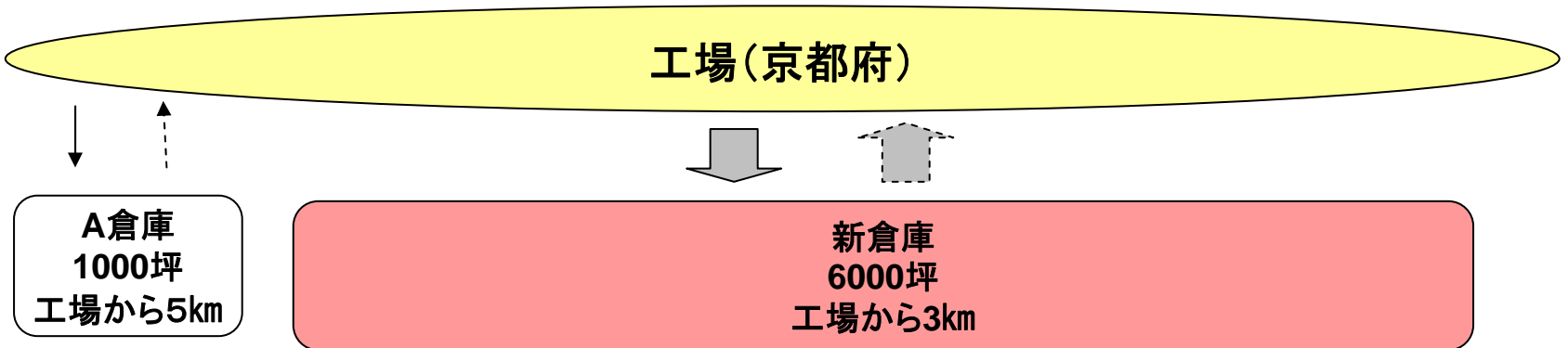
提案事業者：川崎陸送株式会社

# 集約の概要

## 現状



## 計画



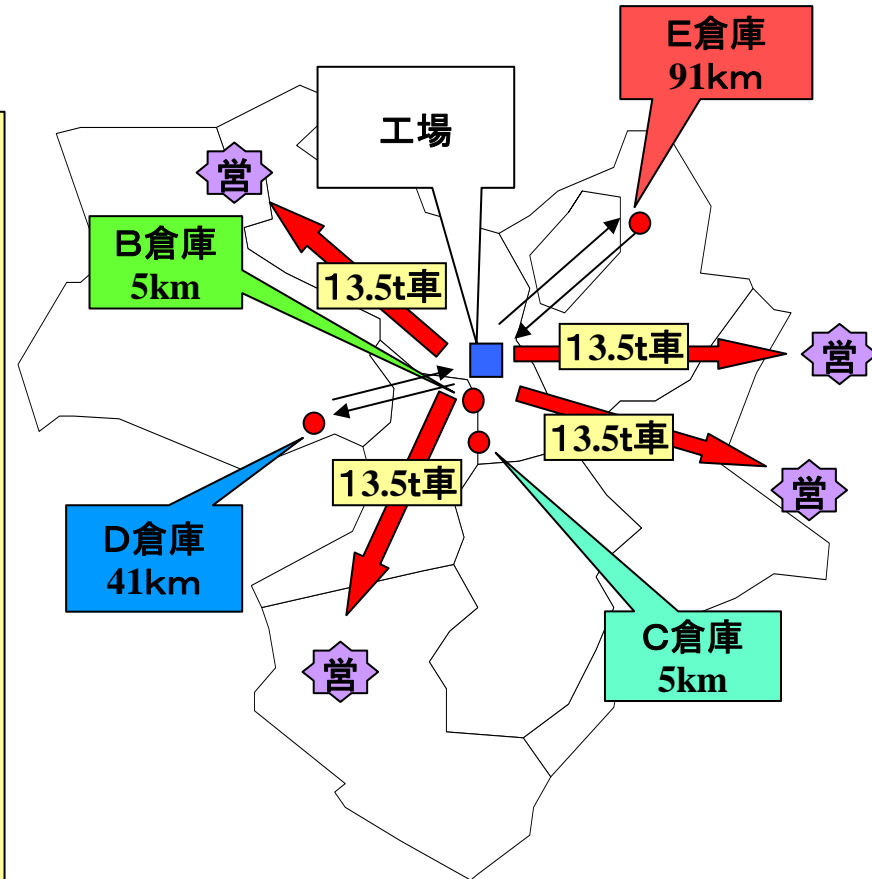
# 計画の内容

## 現状

◎A社(メーカー)は、近年、自社工場の製造量を増やす。

### 【影響】

- 外部倉庫の使用増により、横持輸送量が増量
- 横持輸送製品の40%は、再度工場に戻し入れ  
→多品種積み合わせて営業所へ配送するため
- 遠隔地の倉庫使用が増え、輸送距離が延長
- 外部倉庫は狭く、トレーラ化が困難

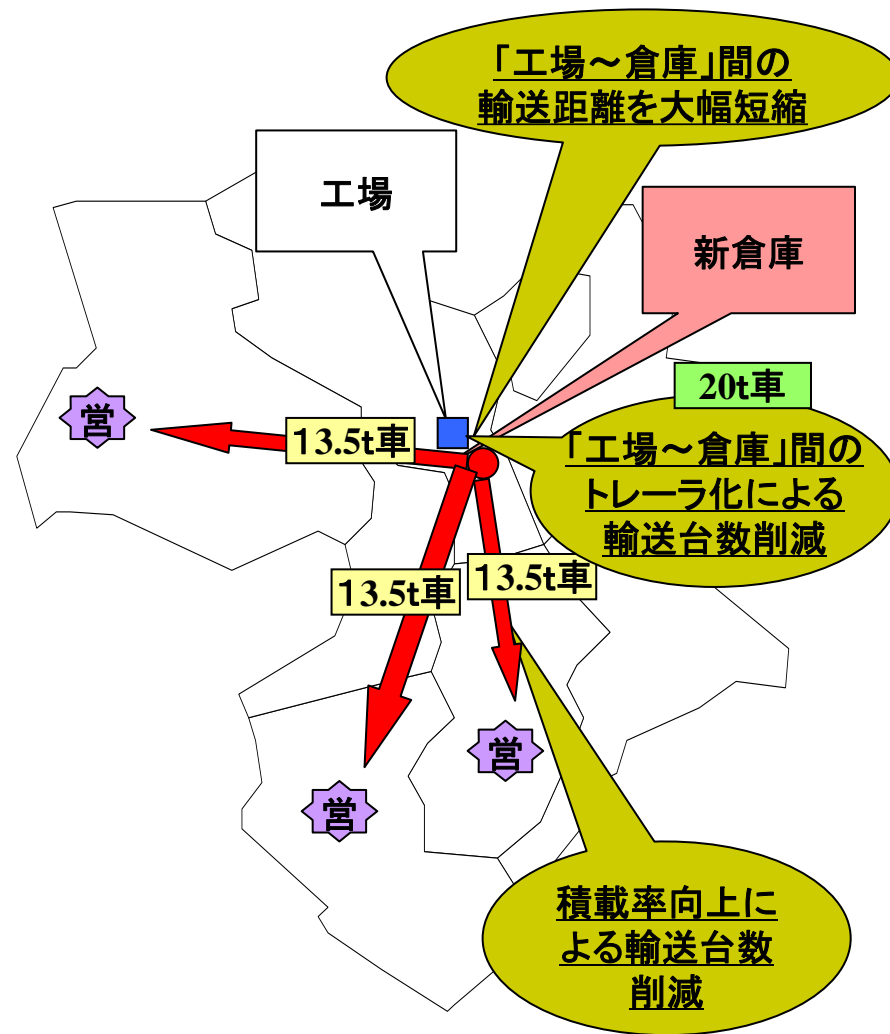


## 計 画

◎B社(倉庫会社)と新たに提携、工場から3kmの地点に新倉庫を建設し、保管・荷役業務を1箇所に集約させる。

### 【効果】

- 「工場～倉庫」間の輸送距離の大幅短縮
- 「倉庫→営業所」の輸送増によるトータル輸送台数削減  
(新倉庫において多品種の積み合わせが可能)
- トレーラ化によるトータル輸送台数削減
- 工場、新倉庫の24時間化(手待時間短縮等)



# 計画実施によるCO<sub>2</sub>削減効果

現 状

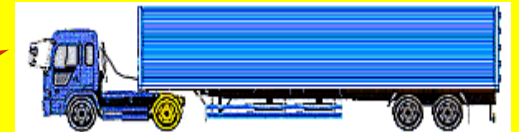
工場から外部4倉庫への輸送  
513.6t



外部倉庫から工場への輸送(重複輸送)  
251.9t

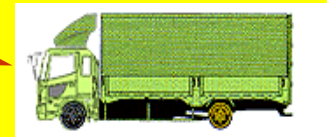
計 画

工場から新倉庫への輸送  
40.3t



50%

50%



重複輸送は大幅に減少  
21.8t

トレーラ化を進め、  
積載効率改善を図る。

年間CO<sub>2</sub>排出量  
765.5t

92%削減

年間CO<sub>2</sub>排出量  
62.1t

他のエリアにも展開可能